20027

心臓カテーテル治療中における看護師の被ばく線量調査～看護師の被ばく低減の検討～

【目的】看護師の放射線業務における被ばく対策は重要であり、今回、高周波心筋焼灼術(以後 ABL)、経皮的冠動脈形成術(以後 PCI)中の、看護師の立ち位置の違いによる被ばく線量を測定し、被ばく線量の現状を明らかにする。【方法】対象は心臓カテーテル治療に携わる看護師 5 名。調査期間は、平成 25 年 10 月～平成 26 年 1 月。対象となった ABL は 25 件、PCI は 33 件である。測定部位は、看護師が防護対策を行っていない頚部と膝下で行い、治療時にネックプロテクターを着用し、プロテクター内外、膝下にポケット線量計を装着し被ばく線量測定を行った。調査内容は、治療開始から、終了時までの被ばく線量を測定。治療中に看護行為を行った立ち位置を、調査用紙を用いて記録した。【結果】ABL と PCI の被ばく線量を比較したところ、全てにおいて ABL の被ばく線量が高く認められた。ネックプロテクター外が内より高い被ばく線量を認めた。ABL、PCI 共に膝下の線量が最も高い結果となった。【結論】ネックプロテクターの高い防護効果が確認できた。当院施設には膝下に対する防護手段がないため、遮蔽具の取り付けを検討していく必要がある。また遮蔽板の使用には限界があるため、看護師は散乱体から近い手技を行うときには術者にもわかるよう声掛けし、作業中は透視をださない協力を得て被ばく低減に努めていく必要がある。